

## 「道をひらく」

「道をひらく」は、松下幸之助氏（現パナソニックを一代で大企業に育て上げた「経営の神様」）の著書です。

この著書も同様、松下幸之助の著書には、経営哲学と同時に「人生の道しるべ」となる言葉や生き方につながる考え方が記されています。著書「道をひらく」の冒頭は、次の一文で始まります。

### 「道」

自分には自分に与えられた道がある。天与の尊い道がある。どんな道かは知らないが、ほかの人には歩めない。自分だけしか歩めない、二度と歩めぬかけがいのないこの道。広い時もある。せまい時もある。のぼりもあればくだりもある。坦々とした時もあれば、かきわけかきわけ汗する時もある。この道が果たしてよいのか悪いのか、思案にあまる時もある。なぐさめを求めたくなる時もある。しかし、所詮はこの道しかないのではないか。

あきらめろと言うのではない。いま立っているこの道、いま歩んでいるこの道、ともかくもこの道を休まず歩むことである。自分だけしか歩めない大事な道ではないか。自分だけに与えられているかけがいのないこの道ではないか。他人の道に心をうばわれ、思案にくれて立ちすくんでいても、道は少しもひらけない。道をひらくためには、まず歩まねばならぬ。心を定め、懸命に歩まねばならぬ。それがたとえ遠い道のように思えても、休まず歩む姿からは必ず新たな道がひらけてくる。深い喜びも生まれてくる。



松下氏は、道をひらくためには、まず歩まねばならぬと説いています。心を定め、それも懸命に歩むこと。それがどんなに遠い道のりであっても、休まずに歩き続けることで、必ず新たな道が開けて、深い喜びも生まれてくるんだと。私自身、何度も読み返し、そのたびに勇気をもらいました。中学生には、少し難しい内容の本かもしれませんが、手に取って読んでもらいたい一冊です。著書の内容をもう少し紹介します。

### 素直に生きること

素直さは人を正しく聡明にします。逆境であっても、順境（うまくいっている時）も、与えられたものを受け止め、素直に生きることが大切です。謙虚の心を忘れずに素直に生きる。素直さを失ったとき、逆境は卑屈を生み、順境はうぬぼれを生むのです。

### 志（こころざし）を立てよう

本気になって、真剣に志を立てること。命をかける思いで志をたてること。志をたてるのに老いも若きもない。そして、志があるところ、老いも若きも道は必ずひらける。大事なことは、自らの意思と態度であり、千万人に反対されようとも志を成し遂げる勇氣と実行力が必要なのです。

### 真剣勝負をすること

人生は真剣勝負であり、どんな小さなことにも、命をかけて真剣にやらなければならない。勝つか負けるかどちらか一つ。負けたら死んでしまう覚悟で真剣にやっているか。大切な一生を毎日真剣勝負のつもりで過ごしていけば、道はひらけると説いています。

道をひらく  
松下幸之助

The Path

自分には  
自分に与えられた道がある  
歩みしめる  
せまい時もある  
のぼりもあればくだりもある  
思案にあまる時もある  
なぐさめを求めたくなる時もある  
しかし、心を定め  
懸命に歩まねばならぬ  
それがたとえ遠い道のように思えても  
休まず歩む姿からは必ず新たな道がひらけてくる  
深い喜びも生まれてくる

経営の経典  
530万部突破

PHP 文庫 480円（税別）